

30年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 10.0	△ 12.5	16.7
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	12.5
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	△ 40.0	12.5	0.0
	ヒノキ	△ 33.3	16.7	0.0
	カラマツ	△ 10.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	10.0	△ 12.5	12.5
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	0.0
	カラマツ	20.0	25.0	12.5
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0

・スギ国産原木の入荷動向は8月、9月はの減少から10月は増加に。ヒノキは8月の横ばいから9月は減少、10月は再び横ばいに。カラマツ、トドマツは8月、9月の横ばいから10月は増加に。

・スギ、ヒノキの消費動向は8月の減少から9月は増加、10月は横ばいに。カラマツは8月の減少から9月、10月は横ばいに。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

・スギの在庫動向8月の増加から9月は減少、10月は再び増加に。ヒノキは8月の横ばいから9月減少、10月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
スギ	10.0	0.0	0.0
ヒノキ	16.7	0.0	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
米マツ	△ 50.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ合板用原木の購入価格動向は保合。
・カラマツ、北洋カラマツとも保合。
・米マツ弱含み。
・その他(トドマツ)横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・8月は盆休みにより稼働日数が減る分入荷は減少。安定した入荷、消費になっている。消費に合わせての入荷により在庫は横ばい。
・入荷動向は、スギは盆明けから入荷増、カラマツ順調、トドマツは7月中旬から港への集材状況が少し悪くなっている。消費動向は、ほぼフル生産で生産アイテムの比率も大きく変わってないので消費は横ばい。在庫動向は、スギ・カラマツは少しずつ増えている。トドマツは入荷分を消費している状態なので在庫は少ない。
・入荷動向は横ばいで変化なし。カラマツを主体に消費している。
・岐阜県内、7月の豪雨の影響でスギ、ヒノキの入荷が激減、8月以降の入荷に期待。スギ、ヒノキは入荷後直ちに消費する状態で、在庫ゼロに等しい。カラマツは増加気味。

(原木価格)

・スギは安定している。カラマツは他社との競合により、何時上がるか不安。
・上昇し続けた米マツの価格が少し下がってきたとの情報はあるが、まだ高い。当社購入している品目は大きく変動しないと思われる。
・国産カラマツ、北洋カラマツともに高値で推移している。
・スギ、ヒノキ、カラマツとも価格はほぼ横ばいで推移。

30年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
生産動向	構造用(9mm)	△ 10.0	12.5	0.0
	〃 (12mm)	△ 8.3	20.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 25.0	10.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 8.3	10.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 16.7	10.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 10.0	12.5	0.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	10.0	10.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	10.0	10.0
	〃 (24mm)	△ 16.7	10.0	10.0
	〃 (28mm)	△ 16.7	10.0	10.0
在庫動向	構造用(9mm)	10.0	12.5	0.0
	〃 (12mm)	25.0	10.0	0.0
	〃 (15mm)	16.7	10.0	0.0
	〃 (24mm)	25.0	10.0	0.0
	〃 (28mm)	16.7	10.0	0.0

・構造用合板の生産動向は9、12、15、24、28mmとも8月の減少から9月は増加、10月は横ばいに。

・出荷動向は9mmは8月の減少から9月は増加、10月は横ばいに。12、15、24、28mmとも8月の減少から9月、10月は増加に。

・在庫動向は9、12、15、24、28mmとも8月、9月の増加から10月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
構造用(9mm)	0.0	△ 12.5	0.0
〃 (12mm)	0.0	△ 10.0	0.0
〃 (15mm)	0.0	△ 10.0	0.0
〃 (24mm)	0.0	△ 10.0	0.0
〃 (28mm)	0.0	△ 10.0	0.0

・各品目ともやや弱含み。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

・生産動向は、9mm以外は稼働日数が減る分生産減少。出荷動向は、9mm以外生産が減ってもそれ以上に出荷減。工事現場の遅れと相場が不安定による客先の当用買いになっている。在庫動向は、ここ最近に無いくらい荷動きの悪さで、9mm以外は増える見込み。

・生産動向は、前月の出荷や在庫状況により多少の変動はあるが、大きく生産アイテム割合は変わってない。出荷動向は、ここ数カ月出荷は今一つ勢いが無いが、秋からの需要が増による出荷増を期待も込みで見込んでいる。在庫は増えている。秋口から少なくとも生産イコール出荷量となり、増加が止まると見込んでいる。

・入荷動向は少量生産につき変化なし。

・生産動向は計画通り生産。出荷動向はほぼ横ばいで推移。在庫は24mm、28mm増加。8月下旬オー

(構造用合板の価格)

・メーカー出し値は変わらない。流通の中で安値販売が散見される。

・荷動きが悪いので、他社では安値も出ているようだが現行は横ばい。ジワジワ値下げの方向へ動くと思われる。

・全品目とも価格変化なし。

・12mm～28mmの出荷価格は横ばい。